

公文書館通信

Vol.1 (平成30年5月発行)

突然ですが

「一昨日の朝御飯に何を食べたか言える人はいますか？」

これは、昨年5月に当館が開催した「歴史公文書等保存条例制定記念シンポジウム」で講演された東洋大学の早川和宏教授が、会場の皆さんに問いかけられた質問です。

講演は、以下のとおり続きます。

(中略) 一昨日ですら自分の記憶が違っている可能性があるわけです。記憶というのは、かなり危ういものです。さらに、我々は記憶に上塗りをすることがあります。

ところがそれを記録に残しておく、以前、レコーディング・ダイエットという、とりあえず食べたものを手帳に付けると痩せるというダイエット法があったと思いますが、それをやっていけば、一昨日の朝御飯のことは記憶じゃなくて記録になります。相当の確実さでそれを食べたであろうということが、推測できるわけです。ところが、このことが記憶でしか残らないということになると、内容がどんどん変わっていく可能性があります。一昨日の朝御飯で何を食べたかというのは個人的な問題であって、それが記録化される必要はないと思いますが、これが私個人ではなくて、地域にとって、鳥取県にとって影響があることであれば、それが記憶だけによって語られていくことは危険です。(以下略)

新聞やテレビでは、森友・加計問題、自衛隊日報問題、旧優生保護法問題・・・次から次へと問題が取り上げられ、「公文書」という言葉をよく耳にする昨今ですが、前述の早川和宏教授の講演録にあるキーワード「記録」、まさにこれが公文書管理の原点ではないでしょうか。

ところで、鳥取県の公文書を所蔵している「公文書館」のこと、皆さんはどの程度知っていますか？

「図書館の前にある建物ね」

「古い簿冊が置いてあるところ」

「のんびりしていそう」

こんなところでしょうか・・・。(苦笑)



公文書館の職員のみならず、皆さんが、歴史資料として重要な公文書を保存し、現在及び将来の県民に伝えていく責務を負っています。公文書管理の重要性が注目されている今こそ、自分の作った簿冊が将来どのように保存・利用されるのか、そのために公文書館がどんな仕事をしているのか、皆さんに知っていただきたい！ということで、このメールマガジンを発行することにしました。

メールマガジンでは、公文書の作成・保存・利用等について、事例を交えながらお届けします。なるべくコンパクトに、なるべく初心者目線でお伝えしていこうと思います。少しでも皆さんのお役に立てることを願っています。それでは、ご覧ください！

～公文書館ってどんなところ？～

公文書館では主に以下のような業務を行っています。

今号では、皆さんに最も密接に関わる(1)の仕事を中心にお伝えします。

(1) 歴史公文書等の収集・整理・保存・利用提供

(2) 行政・統計刊行物の収集・整理・保存・利用提供

(3) 展示・学習等普及啓発

(4) 新鳥取県史編さん事業

Point. 1 歴史公文書ってなあに？

- ・歴史という言葉がついているので、今の自分の仕事には関係ないと思いませんか？
- ・業務で利用する期間（保存期間）が過ぎても永久に保存すべき重要な公文書を「**歴史公文書**」と呼びます。つまり、皆さんが作成する公文書のうち、一定の基準を満たすものはすでに歴史公文書なのです。
- ・公文書館に引き継がれた歴史公文書は、県民の一般利用に供されます。公文書は県職員のものではなく県民共有の財産だからです。

(イメージ)

Point. 2 公文書館の書庫探検！

- ・公文書館には、公文書が約5万冊、個人等から収集した資料が約1万点あります。
- ・地下に4つの書庫があり、年代別・種類別に保存されています。

○引き継がれた公文書



○寄贈文書



公文書
歴史
公文書

Check! 公文書館の活用方法 ～簿冊の検索方法、知っていますか？～

- ・業務のために簿冊を見たい、そんな時の検索方法は！
 - ① **文書管理システムで簿冊検索**
 - ・簿冊名、フリーワードなどを入れて検索。検索方法は工夫しましょう。
 - ② **一覧が表示されたら、一番右側の保存場所を確認**
 - ・右側の保存場所が「公文書館書庫」になっていれば、公文書館にあります。
 - ③ **公文書館簿冊閲覧（貸出）データベースで貸出申請**
 - ・公文書館にある簿冊は、公文書館簿冊閲覧（貸出）DB（リンク参照）で貸出申請してください。
 - ・貸出可能期間は、原則1週間です。お急ぎの場合はお電話ください。

Check! 現在開催中の企画展及び新刊のご案内

現在展示中 小学生が体験した鳥取大火 ～5月15日(火)まで(1F 展示コーナー)

鳥取大火をテーマにした小学生の文集を展示しています。当時、遠足からの帰り道で火事を知った児童が、率直かつ豊かな表現力で火事の恐怖や被害の大きさを記しています。まだご覧になっていない方はお急ぎください！

H30.4 新刊 鳥取県史(考古3、近世4・5、近代5・7)、ブックレット19巻、研究紀要9号

冒頭でご紹介した東洋大学早川教授の講演録は研究紀要9号に収録されています。館内に見本があります。